

にしっこ 西っ子のみなさんへ 25

6月18日

民間会社「スペースX」の有人宇宙船「クルードラゴン」が、「ファルコン9」ロケットによって5月31日に打ち上げられました。日本も、ISS国際宇宙ステーションに物資を輸送する「コウノトリ」を載せたH II B ロケットを先月打ち上げています。しかし、日本には有人宇宙船を打ち上げる計画はありません。



宇宙に人を送ったことがある国は、今までにアメリカ、ロシア、中国の3つの国しかありません。それほど、人を宇宙に送ることは難しく、宇宙ロケット開発に関しては国家プロジェクトとして今までは行われてきました。しかし、今回は国の協力が全くないわけではありませんが、民間企業が中心となって新しい宇宙ロケット開発を一から始め、人を宇宙に送るビジネスの最終段階に成功したわけです。今までにないとても大きな「挑戦」であったわけです。

宇宙ロケットには莫大なお金がかかります。アメリカが以前使っていたスペースシャトルも、安価に宇宙に行けるようにと、何度も使えるシャトルにしたのですが、実際は予定していた以上に維持費がかかったことと、2機のシャトルと宇宙飛行士を事故で無くしたこともあり、2011年7月で打ち切りとなりました。

宇宙に行くには、とても多くのエネルギーが必要で、たくさんの燃料を積まなければなりません。スペースXのファルコン9は、途中で切り離された第1段ロケット（メインエンジンと燃料を積んでいる部分）を決められた位置に軟着陸させて回収するという神業的なことを行っています。ロケットの再利用化に力を入れることでコストカットする点においても、今までのロケットとは大きく違うところです。

2002年から始まったこのプロジェクトも、当初はたくさん失敗しています。失敗を積み重ねて、今回の偉業を成し遂げることになりました。決してあきらめないという強い意志がうかがえます。スペースXの創設者イーロン・マスクの夢は、火星に人類を送ることだと言われているので、今回の偉業も、まだ夢の途中ということになります。 校長より

